

MAMIYA CAMERA-PHOTO LIFE SUPPORT



マミヤカメラクラブ

マミヤカメラクラブはマミヤカメラをご愛用の方ならどなたでもご入会いただける写真クラブです。マミヤカメラクラブ会報誌 (Mamiya Gallery) の発行 (原則年2回)。プロ写真家による撮影会・勉強会・セミナーの開催。webギャラリーで会員の作品展示。マミヤ製品修理・点検料金の割引等と会員特典もたくさんあります。マミヤカメラに関する情報、会員相互の親睦と写真技術向上をめざし、素晴らしい写真の世界をご堪能ください。



入会費用

入会金 1000円 (税込)
 年会費 3000円 (税込) ご入会日より1年間。
 ※但し2年分の年会費をご入会時にお納めください。

特典

- マミヤカメラクラブ会報 (Mamiya Gallery) の発行。
- クラブ撮影会の開催。
- 勉強会・セミナーの開催。
- ホームページ上に会員作品ギャラリーの開設。
- マミヤ製品修理・点検料金の割引。
- 会員証、オリジナル会員バッジ提供。
- オリジナル会員名刺制作 (有料)。

●製品・修理に関するお問い合わせは、サービス受付へご相談ください。

- 修理をはじめオーバーホール、清掃等を承ります。
- 操作上の疑問にもお答えしています。

Phase One Japan 株式会社

物流センター内サービス受付

〒385-0052 長野県佐久市原 547

TEL.0267-62-8036 FAX.0267-62-8137

営業時間 9:00~17:50 土、日、祝日は休業



マミヤカメラクラブ事務局

〒113-0033 東京都文京区本郷 3-39-14 ワイズビル 株式会社ワイズクリエイイト内

TEL.03-5689-2776 FAX.03-5689-2786

E-mail :info@mamiya-club.com

- マミヤカメラクラブの入会お申込み等お気軽にお問い合わせください。
- 撮影会・イベントのお申込み・お問い合わせを承ります。
- 下記、ホームページでも詳しくお知らせ致しております。是非ご覧ください。

マミヤカメラクラブホームページ <http://www.mamiya-club.com/>

●株式会社ワイズクリエイイトでは、下記のような業務を行っています。

- フェーズワン製品・大中判カメラ販売を致しています。
- 撮影アクセサリ、ザックの販売を致しています。
- プロラボ現像・プリントを承ります。
- 撮影会・ワークショップ・セミナーを開催しています。

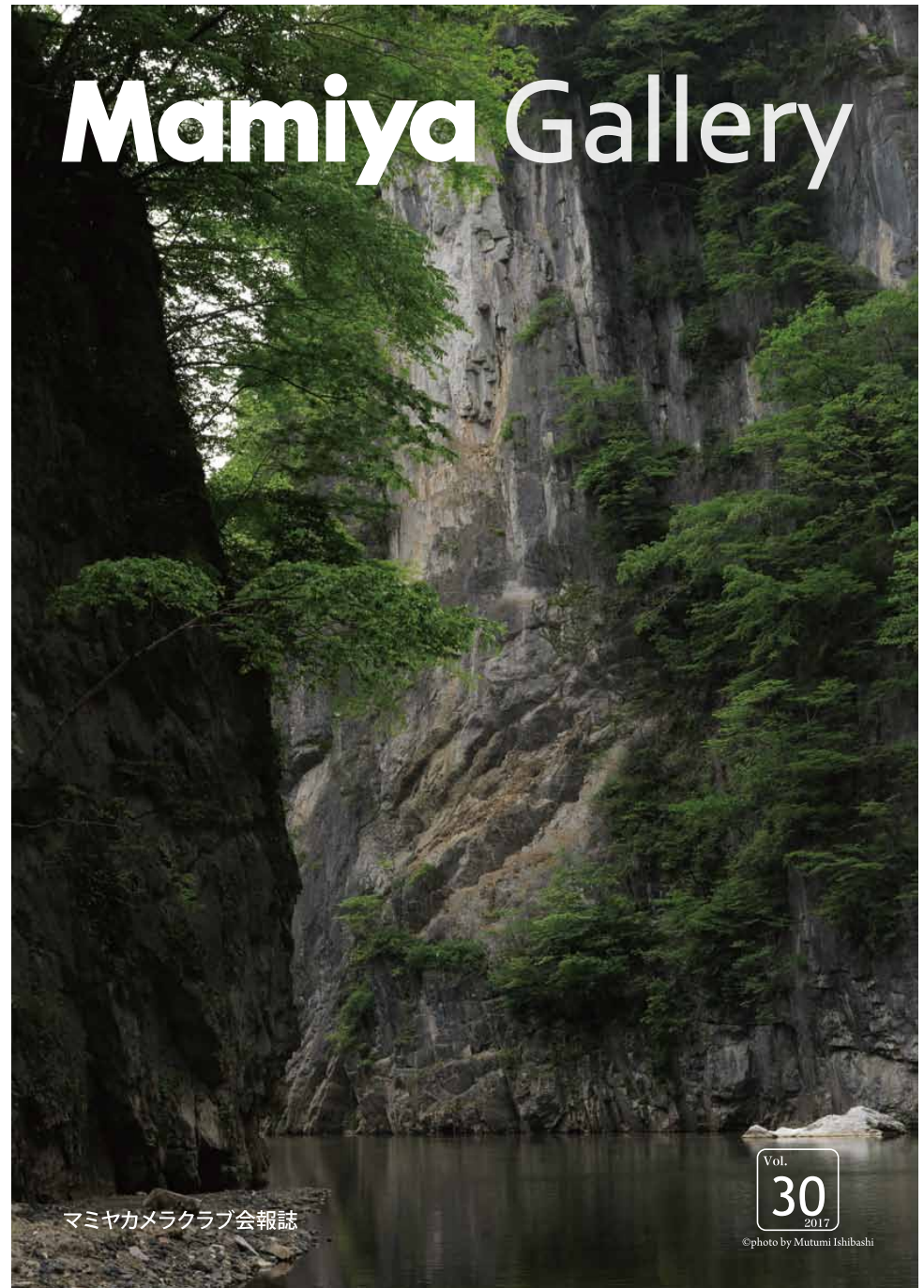
ワイズクリエイイトは写真を通じて人と人、人と自然とのコミュニケーションを確立する事を目的とするフォトオフィスです。

大中判カメラ専門ショップを展開、自然写真家、山岳写真家による写真セミナー、撮影会の開催、写真集の出版、写真レンタル、各種制作業務等、写真に関するソフトとハードあらゆる業務を行います。

www.yscreate.co.jp



Mamiya Gallery



マミヤカメラクラブ会報誌

Vol.
30
2017

©photo by Mutumi Ishibashi



現在の撮影テーマは「西行の足跡を追って」 日本の歴史を写真で表現する石橋睦美さん。

石橋 睦美 (いしばし むつみ)

1947年千葉県佐倉市生まれ。10代後半から日本の自然を知る目的で各地を歩く。75年頃から東北地方のゆったり地形の広がりや自然の豊かさに魅せられ、東北の自然をテーマに撮影を始める。以後、温気に培われた日本独特の色彩が描く自然美を表現することをテーマとする。89年頃から北限から南限までのブナ林を取材。その後、自然林を背景に成り立ってきた日本の歴史文化を見いだすため全国の森を巡る。2003年、日本の森林の撮影を一段落させて、続いて豊かな自然に神を見いだしてきた日本人の原風景を探る目的で、神域を巡る旅を始める。後に歴史の背景を成す土地を訪ねている。

主な著書に『飯豊連峰・朝日連峰』『東北の山』(東京新聞出版局)、『みちのくの名峰』『島海・月山』『民話と伝承の絶景36』(山と溪谷社)、『ブナ林からの贈りもの』(世界文化社)、『ブナをめぐる』(白水社)、『日本の森』『熊野・神々の大地』(新潮社)、『森林美』『日本の森を旅する』『花の森50』『森林日本』『神々の社』『歴史原風景』(平凡社)ほか。



写真業界最大のイベント、カメラと写真映像のワールドプレミアショー「CP+」のキヤノンブースでも講演(左)。BSテレビ「写真家たちの日本紀行」、「同特別編」等でもお茶の間に登場し大きな話題となりました。(上)ワズクリエイトの書棚の中にもこんなに沢山の石橋睦美さんの写真集が蔵書されています。(下)

表紙 狩鼻溪

1ページ 石橋さんが手にしているのは、Nさんが石橋さんの写真を使用して退職記念に作ってくれたというオリジナル写真集「界」。限定30部。一般には販売しませんが、どうしても欲しいと言う方には先着順で18000円にて頒布致します。

巻頭企画インタビューのために写真家の石橋睦美さんに来社して頂きました。昼前から14時頃までランチタイムを挟んで合計2時間強の取材となりました。石橋睦美さんとは昔からの付き合いで、2000年から2011年までワズクリエイト主催の日本の森ワークショップの指導講師も務めて頂き、日本全国の森60カ所近くを一巡り廻っていたので、「かなり知っているつもり」でしたが、今回のインタビューで更にいろいろなお話を伺い、初めて分かったことが沢山あって驚きを覚えました。今、最も注目されている写真家の一人・石橋睦美さんの写真に対する思いを中心にまとめてみたいと思います。

いきなりですが現在の撮影テーマを教えてください——

興味を持ったのは7~8年前からです。平安後期に日本各地を旅し、歌枕に明け暮れた、「西行」の足跡を追いかけて写真にしたいと考えていました。もちろん、この取材ばかりに専念することはできませんが、ゆくゆくは写真集として出版出来たらと思っています。日本には四季もあるし、これら多様な自然・風土を通して映像表現できたらと思っています。「西行」の足跡全てが映像になるとは考えていませんし、西行研究する訳でもありません。西行伝説もあるので、これらに自分の主観を入れてイメージした作品にするつもりです。撮影エリアとしては、東北、高野山、比叡山、京都、大阪、熊野、四国八十八カ所等で、殆ど今までに取材で廻ったところですが、気持ちを立て直して再訪したいと思っています。また、西行は桜をこよなく愛した人ですから、西行が足跡を記した土地の桜は外せないと思っています。

西行(さいぎょう)

元永元年(1118年) - 文治6年(1190年)は、平安時代末期から鎌倉時代初期にかけての武士・僧侶・歌人。惠清、則清、菊清とも記される。出家して法号は円位、のちに西行、大木房、大宝房、大法房とも称す。

出家後は心のおもむくまま諸所に草庵をいとなみ、しばしば諸国を巡る漂泊の旅に出て、多くの和歌を残した。出家直後は鞍馬山などの京都北麓に隠棲し、天養元年(1144年)ごろ奥羽地方へ旅行し、久安4年(1149年)前後に高野山(和歌山県高野町)に入る。仁安3年(1168年)に中四国への旅を行った。このとき讃岐国の善通寺でしばらく庵を結んだと言われる。讃岐国では旧主・崇徳院の白峰殿を訪ねてその霊を慰めたと伝えられるが、この旅では弘法大師の遺跡巡礼も兼ねていたと言われる。

後に高野山に戻るが、治承元年(1177年)に伊勢国二見浦に移った。文治2年(1186年)に東大寺再建の勸進を奥州藤原氏に行うため度目の奥州下りを行い、この途次に鎌倉で源頼朝に面会し、歌道や武道の話をしたことが『吾妻鏡』に記されている。

伊勢国に数年住まったあと、河内国の弘川寺(大阪府南河内郡)に庵居し、建久元年(1190年)にこの地で入寂した。享年73。

プロとして最初の被写体は——

山が好きで山の写真を撮り始めました……。リュックに撮影機材と荷物を詰めて1週間~10日間と山に入っていました。それも山全体を撮影するのではなく、例えば鳳凰三山に出かけた時は、風の影響で真っ直ぐ育たないカラマツに興味を持って撮影しました。北アルプスの薬師岳の撮影でも、ここのカール地形と氷河遺跡の痕跡を意識して構図を決めて撮らなければ薬師岳を表現出来ないと考えていました。如何に歴史観を持って撮影するかですね。昨今は、奇抜な風景が持たはやされる様ですが、これは「凄いな」で終わってしまう写真家の思いが伝わらません。風景を作っている背景を知って撮影するのが大事なことだと思います。

その後、山と溪谷社との付き合いで東北の山に視点を定めて写真を撮り始めた時も、何故この場所でのこの風景になるかを意識して撮影する事を心掛けていましたね。山と溪谷社から「島海・月山」という写真集を出版した時も、庄内平野を挟んでそびえる島海山と月山の歴史を考えて撮影しました。人間の生きてきた形には必ず信仰、暮らしを支えてくれる山や海を神様と崇める宗教観を思ったとき「神社」に行き着くのでした。山の撮影を終えて森、そして神社へと移行していったのです。

山の写真は前述の「島海・月山」を出版した時くらいに「もう山はこれくらいいい」と思いました。確か30才くらいだったと思います。



鳳凰三山



五葉山



鳥海山

森の写真撮影の始まりは——

森の撮影のルーツは、早春の飯豊連峰を3週間の取材を終えて下りてきた時でした。中腹のブナ林が芽を吹いていて凄い感動を覚えたのを今でも記憶しています。この時「ブナ林を撮ろう」と思ったのですが、当時はブナ林など注目されていませんでしたし、写している写真家もいませんでした。

ブナ林を積極的に撮影していて気付いたのが、日本の森を取り巻く文化圏の中には、照葉樹林帯文化と落葉広葉樹林帯文化の二つがあることでした。前者は自然の中で採取と消費がされ、後者は稲作文化に代表されます。これを切り口として映像表現する事にしました。これが平凡社から出版した「森林日本」です。

不思議なもので、私は昔から節目節目でいるいる人との出会いがありました。世界文化社から連絡があり「ブナ林からの贈りもの」を出版し、それが次に繋がり、新潮社のシンラの3年3ヶ月にも及ぶ連載が始まりました。そして、これにより「日本の森」「森林美」「神々の杜」「歴史原風景」と出版が続きました。山の写真集は、「みちのくの名峰」と「鳥海・月山」しか出版していないのですから、如何に歴史観をふまえた写真集が多いことがわかります。

写真文集の形が多い様に思うのですが——

テーマを決めて自分の思い入れを残すのが写真集と思っています。昔は出版社や編集者もゆとりがあって写真を載せただけの写真集でも出版できたし売れもしました。今は時代が変わって読者が本当に欲しいと思う写真集は少ないと思います。例えば以前「アニマ」と言う本がありましたが、編集者と「動物を1枚の写真で表現するのは難しい……だから動画に移行して行く……」と話したことがありました。当時はこの現象は風景写真にまで及ばないと思っていましたが、今や4K、8Kの風景動画が当たり前時代の時代です。適いませんよね。

だから個人レベルで映像表現しようとする、唯一文学的な考察が必要になると考えています。文章と写真とが必ずリンクされていること。作者の思い入れが必ず入っていることが重要なのです。ですから私の写真集は写真文集形態が多いとも言えます。



日本の風土がもたらす奥深い色彩美を圧倒的な映像表現で紡ぎ出す。昨年、キヤノンギャラリー銀座で開催された写真展「和風抄」は大きな話題になり、多くの来場者がありました。オープニングレセプションで挨拶をする石橋睦美さん。写真展は札幌、梅田、福岡でも開催されました。「和風抄」案内ハガキ。



クラブ事務局を務めるワイズクリエイティブが主催した「日本の森ワークショップ」は日本全国の森を10年掛けて、約60カ所廻りました。この影響を受けて個展を開催したり写真集を出版した方もいます。ワークショップ時は、ただ被写体がキレイだから構図、露出だけで無く、その場所の歴史や地形特長もアドバイスされていました。写真クラブでの講演や講評は、曲に衣着せぬ発言で当を得て受講者を唸らせました。良いものは良い、悪いものは悪いとズバリ言うのが石橋睦美さん流です。



羽黒山



羽黒山

森を撮り終えた後は「神社」ですか——

森を撮り終えて、熊野の地に思い入れが出始めた時、キヤノンさんとの付き合いが深くなってキヤノンカレンダーを担当する事になり1年掛けてカレンダーの取材で熊野に入りました。熊野は一生を掛けてず〜と撮影しようと思っていたほど思い入れが強かったのですが、この取材の中で「神社は日本歴史の原点である」と気付き、それ以降の取材は「神社」にシフトするようになりました。

神社に祀られている多くの神様は大和朝廷の祖神で、これが日本全国に広がっているんですね。たいした影響力だったと思います。ただ、場所場所の神社にはこの大和朝廷の神様以外に龍神様などに代表される地神様がいるんですね。それが村人の暮らしをささえてくれる八百万神の神様なんですね。戸隠神社奥社には田力男命を祀る社となりあって龍神を祀る社があります。

神社は大変奥の深いテーマでしたが、各地の歴史原風景の撮影から現在の撮影テーマは「西行」になりました。

写真家という職業について——

写真家以外は考えられないですね。勤め人はダメだし、職人もダメだし、好きな事をやっているのが写真家ということです。また、写真家としても写真の売り込みはできないし、節目節目での人との出会いに恵まれ、やりたいことが成就していることになります。自己表現を確立した写真を撮ってれば出版社やメーカーが必ず何処かで見ていてくれるのですね。写真を撮影することが生活のスタイルです。

マミヤカメラクラブ会員に対して——

テーマを持って撮影している人はいると思いますが、必ずそのテーマや写真の背景を知って作品作りをする事が重要だと思います。また、何よりも自分の生き方を大切にしてくださいね。

あっそうそう、はじめて山岳写真を撮影したカメラはマミヤユニバーサルプレスでしたよ。



大湯環状列石



下北仏ヶ浦



森吉山



栗駒山



「曙光さす小川」
5m上の花菜（つる）から花が数10秒の間隔で落ちてくる。小さなせせらぎの音の森に、ボタリ、ボタリと。



「朝の光」 大きな川にせり出した、水面から1mの枝から花が落ち、森には早朝の光が。



「ふと見上げると」 なんと、5mの頭上に沢山の花があるのに気付いた。樹高10m以上の大木。



「茂る葉に隠れて」 地面近くで、40cmの大きな葉に囲まれて目立たず控えている。

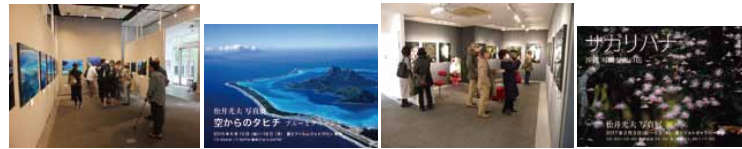


「私を見て」 ちょっとしなを作った風情に囲まれて目立たず控えている。

「テーマを決めて 写真展を開催する醍醐味」

松井 光夫さん

今回の「マミヤカメラユーザーを訪ねて」は、2015年に富士フィルムフォトサロンに於いて写真展「空からのタヒチ」を開催し、埼玉新聞の一面で特集されるなど大きな話題を提供、今年2月には2回目の写真展「サガリバナ 沖縄 可憐な夜の花」を開催したばかりの松井光夫さんにご登場頂きます。「空からのタヒチ」では現地に10回以上訪れ徹底的に撮影を敢行、更に「サガリバナ」も7年の時間を掛けて納得行くまで撮影を行いどちらも写真展という形で作品を発表致しました。テーマを決めて発表するまでじっくりと納得するまで時間を掛けるスタンスこそ写真愛好家の最高の醍醐味かもしれません。そんな松井光夫さんが写真展で発表したばかりの「サガリバナ」を誌上でもご紹介致します。



2015年富士フィルムフォトサロン東京写真展「空からのタヒチ」、2017年富士フォトギャラリー銀座写真展「サガリバナ」、会場風景と案内ハガキ。

マミヤカメラユーザーを訪ねて。



松井 光夫（まつい みつお）
1944年生まれ。埼玉県さいたま市在住。
テーマを決めて撮影。2015年富士フィルムフォトサロン東京「空からのタヒチ」、2017年富士フォトギャラリー銀座「サガリバナ」写真展を開催。マミヤカメラクラブ、日本リンホフクラブ、日本写真家連盟会員。

何故、写真展を開催するのですか？

写真を観て頂いた方の反応が直ぐに分かる事とそこから生まれる交流ができるという点です。また、写真集を出版するのと違い、作品セレクトでも展示配置でもプリントのでき上がりでも全て自分の手の内ででき、「やった！」と言う達成感が得られることですかね。

今後も写真展を開催しますか？

正直3回目の写真展開催も頭の中にあります。もちろんテーマも決まっています。写真の趣味は20年くらいですが、「仕事は理屈の世界で、写真は気持ちの世界」と思って、楽しく写真を撮影して写真展と言う形で発表したいと思っています。きっと自分が楽しければ写真を観てくれた人にもそれが伝わり、一緒に楽しくなると思います。アマチュアカメラマんだからこそ人生に於いて「写真は楽しみ」以外何ものでもありませんよね。



「落ちてなお美し」 小川の緑のわずか10m長の本道に置いかぶさる枝から落ちた花。

撮影テーマの決め方について？

撮影に出掛け、その時出会った特に感動した被写体を連続して撮影するようにしています。前回、航空写真での「タヒチ」をテーマにした写真展では、①海がキレイ②上から見ればもっとキレイ③もっと色々なバリエーションで撮りたい④撮り続けたい⑤写真展で発表したいという事になったと思います。

今回の「サガリバナ」も、①ある撮影会でサガリバナを垣間見て美しさに感動②ちゃんと撮影してみたい③試行錯誤で撮影を開始し満足を得られず④植生や場所等調べて⑤サガリバナの面白さが増幅し⑥7年撮り続け⑦写真展で発表となりました。



「まだまだ続く」 一つの木でも、花が咲く日はバラバラ。



「一筋目立って」 40cm長の葉が付いている枝から、花茎が一筋だけ下がっている。正に、サガリバナという感じ。

ポートレートギャラリーを運営する 日本写真文化協会・堀江事務局長、田村館長に聞く。



田村 民雄 (たむら たみお)
1941年10月生まれ。
キャノンでキャノンサロンを担当後、カメラのドイ社へ入社し、ドイフォトギャラリーの立ち上げと運営を担当。その後キャノン社に戻り2003年にポートレートギャラリー館長として就任。

堀江 一久 (ほりえ かずひさ)
1948年1月生まれ。
学生時代から写真に興味を持ち富士フィルムに入社。入社後、東京・大阪・仙台に配属後、最終的にプロ部・写真館担当部署で定年。2011年に日本写真文化協会事務局長に就任。

皆様も写真展等で訪れたこともあるかと思いますが、東京・四谷のポートレートギャラリーですが、このギャラリーを運営する母体(法人)をご存知ですか?一般社団法人 日本写真文化協会と言いますが、ギャラリー運営以外のどのような活動をしているのか正確に知っている方は少ないのではと思います。そこで今回は同協会の事務局長・堀江一久さんと同ギャラリー館長の田村民雄さんのお二人に協会の活動内容とギャラリーのお話を聞きするために訪ねてみました。四谷と言えば上智大学が思い浮かびますが、それにしても駅前の四谷見附交差点から徒歩数分にある同協会はとても便利な場所で、ポートレートギャラリーの来場者が多い事も頷けます。(木戸)



一般社団法人 日本写真文化協会
〒160-0004
東京都新宿区四谷 1-7-1 日本写真会館 5F
TEL 03-3351-3002 FAX 03-3353-3315
【ホームページ】 <http://www.sha-bunkyo.or.jp>

日本写真文化協会、ポートレートギャラリーの在る日本写真会館ビルは同協会の所有。現在1階にコンビニ、3階に日本写真館協会、四谷写真塾等もテナント入居している。

—— ポートレートギャラリーの現状について？

皆様のおかげで写真展開催希望者もかなり増えています。当協会の文化部でその審査を行っていますが、応募作品のなかには、撮影時の苦労等もあるのでしょうか、思い込みの強い写真が多い様に感じられます。やはり写真は魅(見)せるものでないといけません。

ギャラリーの大きさ故にグループ展が中心になっている傾向にあります。今のところスペースを分割して複数の写真展は行っていません。今後、分割化による個展の促進も検討したいと思います。

また、築44年経過するこの写真会館のビルですが、このところ老朽化が目立ち、そろそろ建て替えの話しも持ち上がってきました。今、写真の用途や価値が大きく変化・拡大していることを考えると、どんなギャラリーを作りそしてどう運営していくか、今後の大きな課題となってきます。(堀江事務局長)

写真展はお客様に見せてなんぼですから、見た人が感動する様な作品で開催して欲しいと思います。また、残念ながら審査に通らなかった方へのアドバイスを要望されることがありますが、ギャラリーとしての立場でアドバイス等は一切行っていません。それを行うのは写真家だと思いますので、グループ展でも指導写真家をお願いするなどご考慮ください。個展を開催するには、70~80点の作品展示が必要な壁面ですので、厳しいようにも思えますが、その分プリントを大きくして展示できるメリットもあります。

ビル建て直しの問題については避けられないので、新装成ったポートレートギャラリーでは個展も開催し易く、写真が作品として売れる様な仕組みが展開できたら良いですね。(田村館長)

—— お二人のプライベートな写真活動について？

中学生の時から写真に興味を持ち、高校では写真部に所属していました。そんな事もあって富士フィルムに入社したのかもしれない。小学生からチョウに興味を持ち、図鑑に載っている展翅板のチョウに違和感を感じていました。どうやって生きてるのか?どうやって飛んでいるのか?を写真で表現してみたいと思い、今でも時々捕虫網からカメラに持ち替えてチョウを追っています。(堀江事務局長)

前職がキャノンでしたから、OB展などのグループ展に作品を出展しています。また、現在フォークラブ遊遊(守谷市)、写心クラブ遊友(我孫子市)、フォトサークル四季(立川市)の指導講師も務めており、作品発表にも協力しています。(田村館長)



お付き合いになった方もいると思いますが、堀江事務局長と田村館長のスナップ後方には、歴代の日本写真文化協会会長の肖像写真が飾られています。日本の写真の原点と言われるだけであってその歴史の重さを感じることはできる肖像写真でした。



第63回全国展フォトコンテストの応募パンフレット(左)、ワールドフォトグラフィックカップ開催資料(中)、PAJ記念講演パンフレット(右)。



日本写真文化協会、ポートレートギャラリーの在る日本写真会館ビル1階入り口にも写真展があります。



キレイに整理整頓された日本写真文化協会事務局オフィス。5人のメンバーで記念写真です。



ポートレートギャラリーのアプローチエリア。ここが写真展の受付です。日本山岳写真協会選抜展の開催中でした。



ゆっくり写真が鑑賞できるようにソファやテーブルも配置されています。

—— ポートレートギャラリーを運営する日本写真文化協会について？

そもそも日本における写真の原点は写真館でして、日本写真文化協会は写真館の全国組織です。戦後の荒廃の中「写真を通じて日本文化の進展に寄与すること」を目的に、昭和23年に文部省(当時)より社団法人の認可を受けスタートしました。平成23年、一般社団法人へ移行し現在に至っています。現在の会員数は2000名強と賛助会員約25法人で構成されています。(堀江事務局長)

主な活動は大きく分けて下記となります。

- 毎年6月1日の「写真の日」を記念して会員のための基調講演会を実施。
- 会員、賛助会員を対象とした会報「写真文化」を隔月発行。
- 一般参加の写真コンテスト「全国展」を毎年実施。作品集発刊。
- ポートレートギャラリー(一般公募)の運営。
- 写真の技術向上のための講習会「夏期写真大学講座」を毎年実施。
- 写真のコレクション及び関係資料の収集。
- 国内外の写真団体との交流。



紙面では紹介できないくらい沢山の事業を展開し、写真文化を発信している日本写真文化協会です。是非ホームページをご覧ください。
<http://www.sha-bunkyo.or.jp>

—— 活動の中で特にアマチュアカメラマンと関係のあるフォトコンテスト、ギャラリーについて？

まずは、今年で63回目の開催となる「全国展」フォトコンテストです。第1部が「組写真」日本の自然・日本の文化。第2部が「単写真」日本の自然・日本の文化。第3部が「単写真」人物、ポートレート、家族写真等。また、今年から新たに第4部として「学生の部」自由を設けました。特に内閣総理大臣賞、文部科学大臣賞を設けているのも特長です。写真家の熊切圭介氏、田沼武能氏、フォトコン編集長等の皆と当協会役員により審査を行い、入賞・入選作品は5月28日の東京都美術館を皮切りに、富士フィルムフォトサロン札幌〜大阪〜福岡、そして12月21日からポートレートギャラリーで写真展を開催します。(堀江事務局長)

そして、写真文化の発信基地でもあるポートレートギャラリー運営です。今年15周年を迎えますが、当初はポートレートギャラリーという名称故に、ポートレート作品だけしか展示できないのではとの解釈で2~3年は運営に苦労しました。しかし、今はいろいろ写真展を開催し、沢山の来場者を迎えるギャラリーとなりました。因みに、昨年の展示内容は、風景=8、山岳=2、花=1、鉄道=2、混在=30、文化財=1、人物=3の割合となっています。(田村館長)



今号の「大判カメラのすすめ」は、テクニカルカメラの代表機種とも言えるリンホフに広角 90 ミリレンズ (35mm 換算 24mm) を装着し、会員の町田俊夫さんと一緒に事務局近くの霊雲寺・本堂の建築写真撮影を試みました。本来このような建築写真はアオリ量の大きいビューカメラが適しているのですが、果たしてテクニカルカメラでどれだけのアオリ効果を表現できるかご注目ください。(木戸)

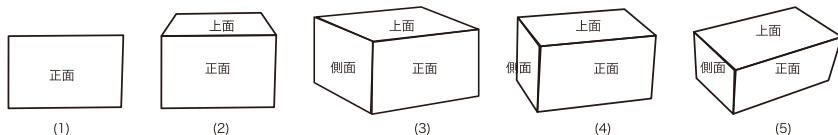
大判カメラ

のすすめ

その 10

建築写真の基本は？

どんな商品撮影や建築写真でも被写体を一つの「箱」として捉えると撮影方法のヒントが頭の中に浮かんできます。イラストは立体物の箱をカメラポジションにより「正面・側面・上面」の3面をどの様な面積比にすれば良いかを表していますが、(1)は箱正面からの撮影のため一面のみしか写らずに立体感がありません。(2)はカメラポジションを上げて正面と上面の二面で箱を表現しました。更に(3)ではカメラポジションを左に移し側面を写し込み、より箱の形状を表現しました。そして、(4)と(5)は同じ三面を写す場合でもカメラポジションにより三面の面積比が違い、箱のイメージも変化する事になります。



そして、今回のテーマである建築物撮影では、クライアントから沢山の予算と時間を頂けるのであれば、カメラポジションを高くするために足場を組んだりクレーンを使ったりすれば箱の基本である正面、側面、上面の全てを写し込むことが出来ますが、残念ながら通常の建築写真では地面に高い三脚を用意すること位しかできません。となると上面の撮影は諦めて、正面と側面の二面で面積比が一番良い所にカメラを構える事になります。写真(1)は本堂の正面にカメラを構えて撮影したのですが、本堂後部がどの位の大きさがあるのわかりません。そこで、カメラをかなり左に移し撮影したのが写真(2)ですが、山門を通過して大きな階段で本堂を結ぶいわば主役の正面部分の扱いが側面の面積比と変わらなくなってしまうので、今度は、ややカメラを右に戻し撮影したのが写真(3)です。これならば脇役の側面が出しっぱなしに主役の正面を最大限活かした写真となります。



大判カメラでの建築写真は？

さて、ここからが問題なのです。今まで書いた事ならば何も大判カメラを持ち出すこともなく撮影終了となるのです。折角、大判カメラを使いなのですから、写真(3)からもうひねりした大判カメラによる写真に仕上げて行きたいと思っています。



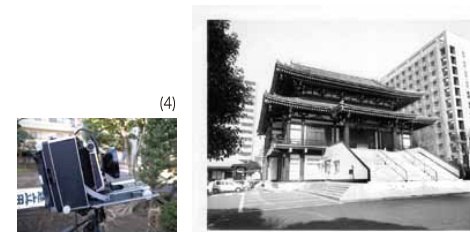
今回撮影に使った機材は、広角レンズの使用に対応したリンホフ 2000 ボディとフジノン SW90mm レンズ、更にその場でプリントが確認できる、今はディスコンとなっていた富士インスタントフィルムでした。

大判カメラの最大の特長はアオリ撮影が出来る事にあります。アオリ撮影は(1)ピント面のコントロールと(2)形の修整コントロールの二つに分かれますが、今回の建築物撮影は後者の形のコントロールアオリを活用することになります。ただし、冒頭に書きました通り、リンホフの様なテクニカルカメラは広角レンズ使用時にはかなりのアオリ制限があり、ビューカメラのような完全な形の修整アオリは出来ませんので、可能な限り写真を撮りたいと思います。因みに、ビューカメラでも、正面と側面の対比率のよい場所にカメラをセットして撮影しますが、(イ)の様に建築物の垂直線と水平線にバースが出てしまいます。そこで、(ロ)では垂直線を整えるアオリを使いました。これでも十分に建築物のアオリ写真として通るのですが、更に、スイングアオリを使い、(ハ)のように水平線を整え、正面が主役であることを強調します。それでは今回のゲスト町田俊夫さんと一緒に撮影開始です。

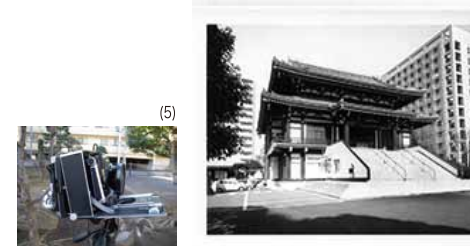


町田俊夫さんのインスタント写真

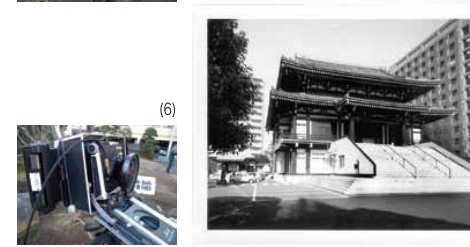
とても大きな霊雲寺・本堂のスケール感が出るように、カメラを側面の一部が写るポジションにセットし撮影しました。高い建物を撮る基本として、三脚を最高ポジションでセットしましたが、高さのある本堂は上部に向かい先ずばまりになっています。隣接する高層マンションを見ても斜めに傾いてしまっているのが分かります。もちろん、ここまでの写真ならばアオリ機構にないどんなカメラでも撮影可能となります。



次に、リンホフのバックアオリを極力垂直にして、本堂の高さを表現しますが、残念ながらリンホフのバックアオリでは完全な垂直線を出す事は出来ませんでした。それでも高層マンションを見てもかなり垂直線が修整されたことが分かります。また、バックアオリを掛けた後にフロントアオリを使い、上下のピントも出す事を忘れてはいけません。



次に、本堂正面を強調するように、先に説明した(ハ)のように、水平線も修整しようと頑張りましたが、テクニカルカメラ故に完全に水平を出す事は出来ませんでした。それでも、本堂右側部分を気持ち前に引っ張り出して正面の存在感を出すことに成功しました。これは高層マンションも前に引っ張られ一部が写らなくなっている事で理解できます。また、これをビューカメラと同じ様な建築写真にするには、長焦点レンズを使いカメラを引いて撮影すれば可能となりますが、問題はどこまで引くことが出来るかと言うことになります。



テクニカルカメラでも無限の可能性がります。

如何でしたでしょうか？ゲスト参加の町田俊夫さんも立派な霊雲寺の建築写真が完成致しました。テクニカルカメラを使った建築写真撮影のヒントは、如何に長いレンズを使うか？如何に被写体から遠く離れるか？で本格的な建築写真が出来ることとなります。お近くの建築物でお試ください。また、興味のある方は定期的に開催している大判カメラ教室にもご参加ください。

編集後記：マミヤカメラクラブ会報誌 30号が完成致しました。今号の巻頭特集は写真家・石橋睦美さんへのインタビューです。2011年にマミヤ社(当時)からクラブ運営を任されて7年が経ちますが、本当はお付き合いの濃さからも一番最初の巻頭特集を石橋睦美さんにお願いしようと思っていたのです。しかし、取材、執筆等かなりの多忙ということもあり中々実現しませんでした。一日千秋の思いで待つ石橋睦美さんの言葉から伝わる写真への熱い思いにご注目ください。

歴史を感じて歩くお茶の水界隈。

御茶の水と言えば明治大学、日本大学、法政大学などがあり「学生の街」と呼ばれていますが、順天堂大学病院、医科歯科大学病院、日大病院などもあり「病院の街」、更には古本屋さん、楽器屋さんも密集しており「古本の街」「楽器の街」などと、その呼称はいろいろです。その他にもニコライ堂やカトリック神田教会、湯島聖堂などのランドマークもあります。共通して言えることは全てに「歴史がある」事です。古くからの大学校舎等は近年建て直しが進みやや寂しい気はしますが、まだまだ古い建物、建造物が残されています。そんな歴史を感じることが出来るお茶の水界隈をカメラ片手に散策してみましょう。ママヤカメラクラブでも、この様な街を対象に「界限撮影会」を積極的に開催しています。是非一緒に出掛けてみませんか。（界限撮影会の予定はママヤカメラクラブホームページで確認できます。）



①お茶の水界限散策のスタートはJR水道橋駅です。白山通りを南に歩くと古いビルの解体工事があちこちで見られます。寂しい限りです。



②白山通りを左に折れると明治7年創建のカトリック神田教会があります。現在の聖堂は昭和3年に完成しました。



③カトリック神田教会の庭にある聖母像。写真撮影には許可をとってください。



④1890年に創立した歴史ある神田女学園は校舎もレトロ風？



⑤1916年（大正5）に猿楽町駐在所として建築され、現在神田猿楽町町会事務所として保存され千代田区の重要物件に指定。



⑥猿楽町のお蕎麦屋さんでは粋な暖簾でお客さんを出迎えます。



⑦猿楽町から駿河台に上る女坂。途中に踊り場があり休めるようになっています。



⑧女坂を上から眺めてみました。女坂と言ってもかなり急勾配なのが分かります。



⑨女坂からマロニエ通りを100m位行ったら男坂があります。もちろん踊り場は無く一直線の急坂です。



⑩錦華公園の東側の坂でお茶の水小学校の旧名「錦華小学校」から錦華坂の名がおこったと言います。



⑪錦華坂の途中から山の上ホテルのチャペルを垣間見ることが出来ます。この日も結婚式の最中でした。



⑫ご存知、日本のクラシックホテルの山の上ホテル。旧館はアー・ドコ調のクラシカルな内外装を残しています。



⑭湯島聖堂の敷地に建つ孔子像。台湾から贈られた世界一大きい孔子像だそうです。



⑮湯島聖堂は江戸時代に将軍・徳川綱吉により建てられた孔子廟で、後に幕府直轄の学問所となりました。



⑯もう一つ有名な橋が聖橋です。湯島聖堂とニコライ堂の二つの聖堂を結ぶ事から命名されました。



⑰JR御茶ノ水駅から神田川を渡るこの橋からの景色のファンは沢山います。飽きない景色ですね。



⑱有名なニコライ堂です。正式名称は東京復活大聖堂といい、日本で最大の正教会の大聖堂でもあります。



⑳昔、池田市之丞の屋敷があったので池田坂と言われています。



㉑昔、甲賀組のものが沢山住んでいたと言う説がある甲賀坂です。

